



9月に入り、秋の気配を感じるようになり、空の色も一段と澄んだ青空となり、水田でアカトンボ類の産卵が見られる頃となります。一方で、沼沿岸のヨシ原湿地では、水田とは違ったトンボに出会う事が出来ます。

沼で初記録のヤンマ

昨年、ラムサール条約湿地登録のため、沼沼に生息するトンボで、環境省のレッドリストに挙げられている種の調査を実施しました。結果としてヒメマイトトンボの他ナゴヤサナエと沼沼で初記録のマダラヤンマを確認しました。マダラヤンマはルリボシヤンマを小さくしたようなヤンマで、寒冷地を好み、北海道南部から東北地方と北関東の一部を経て福井県と石川・長野県に

里山に育む生きものたち

42 マダラヤンマ

(トンボ目 ヤンマ科)

学名 *Aeshna mixta soneharai* Asahina
(環境省・茨城県 準絶滅危惧)

文・写真 / 小菅 次男

いたる北国のトンボです。産地はきわめて局地的で、環境省および茨城県では準絶滅危惧に指定しています。茨城県は太平洋岸の南限に近い生息地となっています。

海岸近くのヨシ原湿地に生息

平地から丘陵地の、ヨシ、フトイ、ガマなどの草丈の高い挺水植物が繁茂する池沼、中でも海岸付近のヨシ原湿地に生息地が見られます。

卵の期間が6〜7か月と長く、卵で越冬し、翌春4月頃に孵化し、7月頃に羽化して成虫となります。お盆前に羽化した成虫はしばらく林などで過ごし、9月になると池沼や湿地の水辺に戻ってきて、10月まで水辺の上を舞い、産卵に訪れるメスを探し続けます。

青色に輝く美しい姿

水色の体の美しさには目を惹きつけられますが、中でも眼の輝きが素晴らしく、まるで秋の空を映したかのように透明で、見る角度によつては紺から水色に変化します。

成熟したオスは主に朝夕、水辺の植物群落のすき間でホバリングを交えた飛翔を行い、なわばりをつくりまわす。メスは主に朝夕、単独で水辺を訪れ、

水面に浮いた枯死植物などに産卵します。オスは上空でしばしば警護飛翔を行います。

津波跡地にマダラヤンマ戻る

宮城県や岩手県の海岸にあつたマダラヤンマの生息地は、東日本大震災の津波で大部分が壊滅しました。しかし、その後海岸の各地に一時的にヨシやガマの湿地が出現し、数種類のトンボ類が飛来。その中にマダラヤンマがいました。本種の生き残った個体が新しくできた湿地に飛来して産卵し、2年目になつて広い範囲で姿が見られるようになったとのことです。

しかし、岩手県、宮城県、福島県で確認されたヒメマイトトンボの7か所の産地は破壊された後、いまだに復活はしていません。ヒメマイトトンボには逃れるすべはなかつたのでしょうか。復活を願つてやみません。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成27年8月末現在)
◆総人口 33,728人 (-3)、男 16,864人 (-3)、女 16,864人 (0) ◆世帯数 12,801世帯 (+10)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています